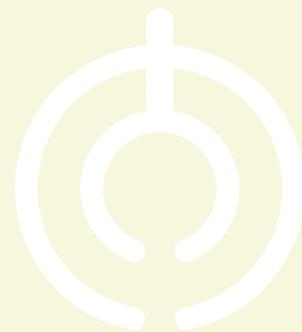


Martha Argerich Day in Oita Prefecture

June 5, 2021



Message from Martha Argerich

私の80才を祝していただき、広瀬大分県知事による「マルタ・アルゲリッチの日」の制定を嬉しく思っています。

なによりも嬉しかったことは、私の音楽祭を通してクラシック音楽の社会での役割を理解して下さったことです。

日本は長年私の活動の一つの支柱を為すものです。

その中で1994年に大分一別府に初めて訪れて以来、私の人生での大切な「初めて」を経験してきました。

それは、公的な役職、自らの名前を冠した音楽祭、椎木正和氏からのアルゲリッチハウスと専用ピアノ マルティータの寄贈を受けたことです。そして今回の「マルタ・アルゲリッチの日」の制定です。

この一つ一つには形式的なものではない、友情や絆といった人間的な思いやりや、繊細な愛情が込められています。

このことは私に何か言葉では表現出来ない感情、我が家に帰り守られているような安心感と言えよいのでしょうか、そのようなものを与えてくれるように思います。特に別府は、私の家族も同様に親しみを感じています。

今までもそうであったように、私は皆さまと共に芸術が社会で役立てられ、人々へ調和や寛容の精神を醸成する一助となり、共に生きる安寧な社会への道と繋がることを信じたいと思います。

この制定の精神が世界の人々へ届き、今というこの時を大切に過ごし、未来への希望へとつながっていくことを願っています。

そのことを大切な友と共に実現するために、

私は何度もここ大分県へ戻ってきます。

本当にARIGATO



©Rikimaru Hotta

Profile

マルタ・アルゲリッチ [ピアニスト]

公益財団法人アルゲリッチ芸術振興財団総裁
別府アルゲリッチ音楽祭総監督
大分県外国人名誉県民

'57年ブゾーニ、ジュネーブの両国際ピアノコンクール優勝、'65年ショパン国際コンクール優勝。CDはグラミー賞をはじめ数多くの賞を受賞。1996年より自らの名前を冠した初めての音楽祭「別府アルゲリッチ音楽祭」総監督を務め、アジアをはじめ世界の音楽家との共演を行っているほか、若手演奏家の育成にも力を注ぎ、その革新的な音楽創造の試みは日本から世界に、ブエノスアイレス、ルガーノ、ハンブルクへ広まり、世界の音楽界に多大な影響を与えている。2005年日本政府より、長年に亘る別府アルゲリッチ音楽祭への功績が認められ旭日小綬章受章。'16年には初来日から46年間の音楽活動はもとより当財団の活動でもある音楽文化の発展及び友好親善に寄与した功績が認められ旭日中綬章を受章。同年12月、芸能分野でアメリカの芸術文化に大きな功績を残した人に贈られるケネディ・センター名誉賞を受賞。'18年10月イタリア共和国功労賞の「コメンダトーレ」受章など各国から数多くの賞を受けている。



©Rikimaru Hotta

大分県は

「マルタ・アルゲリッチの日」を

制定します



©Rikimaru Hotta



大分県知事
広瀬 勝貞

Governor of Oita Prefecture
Hirose Katsusada

世界最高峰の芸術家として世界各国で活躍をされているマルタ・アルゲリッチ氏には、大分をふるさとのように愛していただき、平成10年(1998年)に初めて自らの名を冠した第1回別府アルゲリッチ音楽祭「MUSIC FESTIVAL Argerich's Meeting Point～アルゲリッチの出会いの場」を開催して以来、長年にわたり、世界中の国々から音楽界を代表する音楽家と共に来県していただき、国や民族を越えて音楽で結ばれている場として大分県を発信していただいています。

また、東日本大震災や熊本地震からの復興支援にご尽力いただいたほか、音楽を通じ子どもたちの豊かな心の成長を願って県内各地で開催されている「ピノキオコンサート」への支援など、芸術の社会での役割を見据えた活動は、芸術の本質である人々の調和や寛容の精神を醸成することで、全ての人々が共に生きる安寧な社会へと繋がると信じています。

今年は、アルゲリッチ氏が別府アルゲリッチ音楽祭の総監督に就任してから25周年目の節目の年になります。そこで、大分県では、今年80歳を迎えるアルゲリッチ氏の誕生日を県民と共に祝福するとともに、アルゲリッチ氏の大分県をはじめ日本、そして世界各国での功績を称え、**アルゲリッチ氏の誕生日である6月5日を「マルタ・アルゲリッチの日」として制定し、**地方から世界に向けた音楽祭を通じて、芸術の役割や寛容と共生の精神を世界に発信していきたいと思ひます。

令和3年6月5日

広瀬勝貞

大分とアルゲリッチのつながり

大分は、歴史上クラシック音楽と深い繋がりを持つ地域です。かつて豊後国と呼ばれた大分の地で、16世紀に大友宗麟によって西洋文化の扉が開かれ、宗教や医学など新しい文化や技術が次々と伝わりました。

特に西洋音楽は国内で日本人が初めて学び、演奏された貴重な歴史を有しています。

そうした歴史を持つ大分に、アルゲリッチ氏と親交のあったピアニストの伊藤京子氏を通じ、平成6年(1994年)にツアーの一公演地として初めてアルゲリッチ氏が訪れました。この事がきっかけとなり、平成8年(1996年)にアルゲリッチ氏が別府アルゲリッチ音楽祭の総監督に就任し、平成10年(1998年)に第1回別府アルゲリッチ音楽祭「MUSIC FESTIVAL Argerich's Meeting Point～アルゲリッチの出会いの場」が開催されました。

平成23年(2011年)の東日本大震災の際には、日本復興支援コンサートを開催されたほか、多くの海外演奏家が来日を中止する中、第13回音楽祭のために来県していただきました。

また、平成28年(2016年)、本県も被災し、開催が危ぶまれた熊本地震直後の第18回音楽祭にも、来日を即断していただくなど、アルゲリッチ氏の思いと行動により、県民は復興への大きな力をいただきました。

平成30年(2018年)には、日本で初めてクラシック音楽を演奏された歴史を振り返り、ローマ記念公演が開催されるなど、西洋音楽に関わる大分の貴重な歴史は悠久の時を経て、アルゲリッチ氏へと繋がり国際的に評価される音楽祭「MUSIC FESTIVAL Argerich's Meeting Point」として今も発展し続けています。



西洋音楽発祥記念碑 (大分県庁前)